

令和7年度 よりよい保育者養成を目指して ～常葉大学と園・施設との協議会～

| シンポジウム | 実習指導の省察と実習生の評価 ～実習生一人ひとりの理解に基づいた実習指導に向けて～ |
|---|--|
| <p>【概要】</p> <p>今年度の本協議会シンポジウムでは、実習生の指導を協働して行うことの可能性や課題について議論を深めることを主たる目的とし、令和5年度に実施されたシンポジウムにおいて示された4つの提言・提案から「意味のある実習指導にする」（提言）と「訪問指導等を協働して行う」（提案）に着目し実施する。</p> <p>学生は養成校において事前及び事後指導を通して学び、実習期間中に園・施設において経験的に学ぶ。そのような状況の中で、「実習生」「実習先の教職員」「養成校の教員」の3者が関わる機会が訪問指導であり、実習での学びを左右する極めて貴重な機会である。こども家庭庁の調査報告書（令和5年度、下記参考資料）においても、実習生理解に基づいた園・施設と養成校の協働と実習指導の重要性と必要性は強く主張されている。「訪問指導の実態は訪問する教員により多様である」という認識がある一方で、多様であることの是非等については、いわばブラックボックスとなっているとも考えられる。</p> <p>今年度の協議会において、養成校と園・施設の実習指導のあり方を考える一つの視点として「訪問指導」に着目し、議論する機会としたい。常葉大学と園・施設との協議会として実習指導の協働を目指して対話を行ってきた取り組みの4年目となる本シンポジウムにおいても、これまでの対話を机上の空論とせず、保育者の養成に関わる一人一人が一步踏み出し、協働する実習指導の実現について考えたい。</p> <p><参考> ※クリックすると参考資料を参照できます</p> <p>■令和5年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業（こども家庭庁）「指定保育士養成施設及び実習先保育所の実習指導担当者に対する効果的な研修の在り方に関する調査研究」研究報告書（PDF 本編 資料1～3 資料4～7）</p> <p>■伊藤理絵・森広樹・中村章啓・牧野彰賢・池田美穂・藁科知行・松浦秩保子・遠藤知里（2024） 「協働する実習指導：質の高い保育者養成を実現するために」保育・幼児教育研究年報，1，pp. 37-48. (PDF)</p> <p>■文部科学省「今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会 最終報告」令和6年10月 (PDF)</p> <p>【プログラム】</p> | |
| 時間 | 内容 |
| 15：05～15：10 | オープニング・趣旨説明 |
| 15：10～15：55 | <p>シンポジスト</p> <p>牧野 彰賢 先生 (社会福祉法人ほうりん福祉会法人理事長・幼保連携型認定こども園寺子屋まんぼう 園長)</p> <p>齊藤 真寛 先生 (NPO 法人いろ葉 多気郡地域児童発達支援センター センター長)</p> <p>松浦 秩保子 先生 (幼保連携型認定こども園常葉大学附属 たちばな幼稚園 園長)</p> <p>池田 美穂 先生 (幼保連携型認定こども園常葉大学附属 とこは幼稚園 園長)</p> |
| 15：55～16：00 | クロージング |
| <p>【担当者】</p> <p>常葉大学保育学部 准教授 寶來 敬章</p> <p>常葉大学保育学部 准教授 伊藤 理絵</p> | |